

旭中央病院・宮本さんを職場に戻し



地域医療を再生させる会 ニュース

要請団排除に警察権力導入

法に基づいた対応に警察は退散

9月25日（金）13時から、生憎の雨天の下「第3回 旭行動」を21名の参加で展開しました。患者さんや周辺住宅へのビラまきにも取り組み、様々な声も寄せられました。

10名以上の私服警官が病院内に

当日は、ビラまき宣伝隊とは別に、病院長へ挨拶に向かう要請団を組織し、病院長室へ向かいました。しかし、病院長室に入る以前の扉の前に事務員が立ちほだかり、河北人事課長が「病院長は会わない」と要請団に繰り返しました。

要請団は「今日は名刺交換にただだけ。公的病院の病院長として、主権者が主体の団体が挨拶に来てるのだから会うのが当然」と、名刺交換に応じるよう求めました。こうしたやり取りをする中で、河北人事課長は「退去を求める。退去しろ」と繰り返しはじめ、1時間以上を経過した頃に、突然要請団に向かって10名以上の私服警察官が向かってきました。警察の責任者は「責任者か

ら事情を聴きたい」といきなり切り出しましたが、要請団は「警察は民事不介入が原則だ。これは労働争議であり、何の法律に基づいて来ているのか明らかにせよ。労働争議に警察が介入するとなれば大変な問題だ」と強く抗議を行いました。

要請団の抗議に対し、

さらに要請団をビデオ撮影

病院側は、要請団の抗議により警察が退散した直後から、今度は要請団のビデオ撮影を始めました。要請団は「肖像権の侵害だ。直ちに撮影を止めよ」と

求めましたが、1時間以上時間に渡り撮影を続けました。



警察は河北人事課長を呼び出し、しばらく話をした後、要請団には事情を聴くことも無しに退散しました。

病院長を守るためだけに、法も道理も関係なく病院内に警察権力を導入し、要請団を排除しよう

旭中央病院の職員は、旭市の職員です。法を守るべき公務職場が、無法の限りを尽くす、旭中央病院は異常な事態になっています。

弁護士と相談・準備

病院側が、1時間以上に渡り、要請団のビデオ撮影をし続けたことに対し、法的対応を取るべく弁護士と相談・準備を始めています。

とする病院の体質は、まさに規定や道理を無視して宮本さんの首を切ったものと同質です。

職員編

① 残業をしても上司が時間を管理していて、残業をしてもほとんど認められない。

② 安全委員会など病院からの指示で行われている会議などが時間外に行われ、拘束時間が多いにも関わらず賃金は一切支払われない。

ビラまき隊に多くの反応

③ 医局、看護、リハビリとみんなバラバラで繋がりがなく、不満を吸い上げるところが無い。労働組合が欲しい。

⑤ この件は詳しく知らなかった。この運動をもっと内部へ浸透するよう、もっとやって下さい。期待しています。